

鉤歯の補綴（クラウン）について

デンチャー（特にフレキシブルデンチャー）の鉤歯となる歯牙のクラウンを製作する際に、その機能のためのポイントがいくつかございます。

まずは頬側の豊隆形態。最大豊隆点が適切な高さであれば、鉤を審美的妨げにならない位置に設置できますし、維持力も得られます。（図1）

また、サベイラインのデザインも重要です。鉤側1/3は鉤が曲がってくれないため、あまりサベイラインが高いと鉤を切端側から設置することになり、審美性を損ねることになります。（図2）

レストシートも適切な形状や深さで設置する必要があります。

鉤歯がクラウンになることで、より機能的な形状を与えることが可能です。

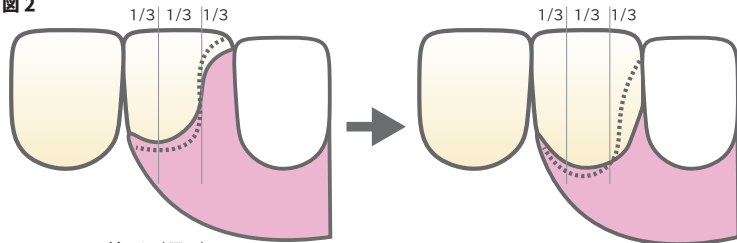
そのあたりも考慮して製作にあたりますので、よろしければ弊社へご相談ください。

図1



頬側の最大豊隆点を適切な高さにする
ことで、鉤を審美的、機能的に設
計できます。

図2



..... サベイライン

鉤側1/3のサベイラインが高いと、
歯間乳頭が高くなり、鉤が目立つ
デンチャーになります。

鉤側1/3のサベイラインの高さ
が適切だと、歯間乳頭と鉤を歯
頸部に寄せて設計できます。